

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4→6・45通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
 カトリック仙台司教区事務局
 TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
 義援金振替口座：02260-9-2305
 名義：カトリック仙台司教区本部事務局

毎年5月の恒例行事となった福島県いわき市での「砂子田さつき祭」が、今年も行われました。今回はそのさつき祭の様子と、大阪大司教区岸和田地区の方々がこれまで行った福島支援についてご紹介します。また、「チーム亘理」の第2回ミーティングが行われましたので、ご報告させていただきます。

これから夏本番になり、各地で夏祭りなどのイベントが行われることと思います。皆様の活動の様子を、ぜひご報告・ご紹介ください。

チーム平・堂根の春の炊き出しイベント

砂子田さつき祭 盛大に

カトリックいわき教会 チーム平・堂根 佐々木 三代子

5月25日(日)、砂子田さつき祭が、福島県いわき市の内郷雇用促進住宅の中庭で開催されました。東日本大震災以来、毎年5月にカトリックいわき教会のボランティアグループ「チーム平・堂根」が中心になって続けられているお祭です。

この内郷住宅に住んでいる人たちは、ほとんどの方が、2011年3月11日に津波被害に遭われたいわき市の久ノ浜地区、豊間地区などの海岸地域で漁業を営んでおられた方々です。250戸ある雇用促進住宅に、震災後、みなし仮設として入られました。

被災地は今、復興住宅への移行時期に移っているところが多いのですが、ここでも時々、復興住宅の話がでます。この地域では、合計1,512戸の公営住宅が建てられることになっており、各地域に徐々に1棟ずつの公営住宅が建てられているところだそうです。年内に完成する公営住宅もあれば、来年2月似完成するところもあります。しかし、この内郷雇用促進住宅でも、6月から徐々に引っ越しされる方がいらっしゃるそうです。そのため、砂子田さつき祭もこのように盛大にできるのは今年が最後だろうと予測する人もいます。



お天気に恵まれ、朝8時には、炊き出しの準備が始まりました。この砂子田さつき祭は、毎回、和歌山や神奈川、会津や仙台などから多くの人がかけてつけることで有名ですが、今回も和歌山から聖ビンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会の3人のシスターが来てくださり、関西風ちらし寿司を振る舞っていただきました。

神奈川県大和市からは、カトリック大和教会のブラジル、フィリピン、日本の信徒の方々23人が、早朝5時からバスに乗り、ブラジルクッキー、フランクフルトソーセージなどを焼いてくださいました。仙台からは、白百合のシスターたちが、稲荷ずしと和菓子を差し入れてくださいました。会津若松のボランティアグループ「赤べこ」は、9人のダルクの人々と共に、焼きそばを作ってくださいました。

もちろん、それだけではありません。この住宅に入っている豊間地区のご婦人たちは、「白身魚のつみれ汁」を作ってください、いわき教会の平・堂根チームは、各種飲み物を提供したり、各所に心配りをしました。

そうこうしている間に、自治会長さんの叩く触れ太鼓で、人々が集まってきました。「この3年間、私たちはチーム平・堂根の方々のこのような炊き出しイベントで、また毎週行われるサロンで生きる力をいただいています。ほんとうに感謝しています」という自治会長さんの挨拶について、平賀徹夫司教様が「皆で楽しくすごしてほしい」と挨拶した。

住宅の人々は、親子連れあるいは友達をさそって、楽しく食事をし、話し、ゆったりとした時間と空間を楽しんでいました。ある参加者は、「今日のために、孫を呼んだんですよ」という方もおられました。



食事の一方、正午からは飯豊権現太鼓、続いて大和教会のフローラさんによるペルーの踊りと、ブラジル・フィリピンの人々の混合合唱団による「ビートルズメドレー」に興じました。

その後は、いよいよ皆さんが待ちに待った「じゃんけん大会」。平賀司教様にまず子どもたちが次々に挑戦。子どもだけではなく「私も、私も」と老若男女が長蛇の列をなし、挑戦しました。挑戦した子どもたちは、たくさんの賞品をもらい、にっこりしていました。



- 写真説明 P1—上 今回初めての「折り紙教室」。子どもたちに大好評でした。
 P1—下 力強く、飯豊権現太鼓が響きました。
 P2—上 今回初登場、いわき市の有名なおそば屋さんが、協力してくださいました。ご主人と共に、自治会長さん自らが器にお汁を注いでサービス。
 P2—下 「じゃんけん大会」で腕をふるう(?)平賀司教。この勝負、勝敗やいかに。

カトリック岸和田地区 福島支援活動報告

カトリック岸和田地区 新田 良子

大阪教区岸和田地区の方々は、震災直後の2011年5月にさいたま教区「湯本ステーション」の後方支援をしてください、その後も継続的に福島を支援してくださっています。これまでの支援についてご報告いただきましたので、ご紹介させていただきます。

2011年5月17～20日、岸和田地区宣教評議会の地区長と信徒2名で、埼玉・栃木(宇都宮)・福島県(いわき市)・茨城・千葉の被災地視察を行い、常磐湯本教会サポートセンターの活動を知りました。その時、そこで活動されているボランティアの世話をする人がほしい、という話を聞き、それを受けて、岸和田地区として湯本サポートセンターで食事づくりの後方支援を行うことになりました。

2011年6月13日から8月末までの間、のべ19名(子ども2名を含む)のボランティアを、週替わり(毎週1～2名)で湯本サポートセンターに岸和田地区より派遣しました。食事づくりや傾聴ボランティアにも参加させて頂き、避難所にはじまり、仮設住宅にも訪問しました。被災者の皆さんが私たちの訪問を受け入れてくださり、出会いを喜び合い、訪問する私たちを逆にねぎらって下さいました。この活動を支えるため、岸和田地区の9教会が2011年6月～2012年1月までの間、月単位でボランティア派遣のために募金活動を行いました。

2012年7月14・15日に、さいたま教区サポートステーションもみの木で、《うたごえ喫茶と海の日コンサート》を開催。大阪より貸切大型バスで、32名が参加しました。



コンサート開催(「もみの木」にて)



♪仮設住宅集会室で「うたごえカフェ」♪

活動継続の中で、大型バスで被災地を視察することに最初は抵抗がありましたが、視察している時に地元の方が、「みなさん、ようこそいらっしゃいました。よく見て行ってください。歓迎します。私たちも皆さんの応援で、前向きに歩んでいきます。」とおっしゃってくださったことがとても励みになりました。また、うたごえ喫茶などで、皆さんと一緒に大きな声で歌っていると、「こんなに大きな声で歌ったのは何年ぶりだろう」とか、「故郷」を歌いながら涙をながされたり、「やっぱり歌うと気持ちいいわ」「またやってほしい」など、とても喜んでくださっているのを見ると、被災された皆さんに少しでも寄り添うことが出来た喜びを感じました。

2013年4月14日、《東日本大震災ドキュメンタリー映画「うたごころ」の上映会》を泉佐野教会(大阪府泉佐野市)で開催。参加者は約200名でした。

2013年10月13日に、福島県いわき市の好間工業団地第三応急仮設住宅にて、《秋まつり》を企画し、遊びの広場、うたごえカフェ、模擬店、ダンス&コンサートを実施。大阪より貸切大型バスで29名が参加しました。

秋まつりでの「ダンス&コンサート」



あるおじいちゃんは、「もう故郷の大熊には帰れねえ。若い人は、新しい生活を始めるために仮設から旅立っている。イベントも少なくなって本当に寂しい」と語りました。細くても長く、東北の仲間とつながっていきたい。「あなたにありがとう」と言い合える関係でたいです。「私たちは決してあなたがたを忘れることはない」、そのメッセージを発信し続けたいです。

大阪からバスで12時間もかかるので、何度も出かけることが出来ない現状と、被災されている皆さんのニーズに沿った活動が出来ているのかが、不安です。

亘理教会も、ボランティアの宿泊所に

第2回 チーム亘理 ミーティング開催

仙台教区サポートセンター 長谷川 昌子

昨年の11月12日に発足した「チーム亘理」は、その名称も仮称ということで誕生しましたが、亘理・山元で活動しているグループがお互いに、「チーム亘理」と言っているうちに約5ヶ月が過ぎ、仮称も取れて、正式名称として定着したようです。

第2回目のミーティングは、5月24日（土）10:00~11:30、カトリック亘理教会で開かれました。

参加者は、さいたま教区から澤野耕司神父様、原町ベース：栗村桂子さん、カトリック東京ボランティアセンター（CTVC）：山崎恵さん、八木山教会オリーブの会：野田和雄さん、竹内省三さん、県南地区担当司祭：ホセ・ゴンザレス神父様、亘理教会：長島夫妻、清野さん、高田明子さん、仙台教区サポートセンター：小松史朗神父、小野寺洋一神父、他が集まりました。

自己紹介の後、各グループが昨年11月以降、おこなってきた亘理地域での活動報告をし、そこから、どうということが今課題として取り上げられているか、について話し合いが行われました。

その中で、支援活動の中心地とも言える亘理教会に、宿泊できないか、という希望が出され、検討しました。

現在、CTVCが行っているボラパックも、さいたま教区の活動も、カトリック白石教会に宿泊して、活動を続けているのですが、亘理教会に宿泊できると時間的にゆとりができるという意見がだされました。

亘理教会の2階は、現在司祭館としては使われていないため、6畳2間に、各3人ずつ計6人は宿泊できるスペースがあります。そこを、ボランティア活動のための宿泊場所として提供されることになりました。学生さんが大勢で参加なさるときは、白石教会が宿泊場所になるのはこれまでと同様です。



被災者の方々が、仮設住宅から復興住宅に移転するときが、小教区のボランティア活動の終了ではなく、復興住宅に移られてからも、いろいろな問題があることは予想されますので、寄り添いの心をもってできるだけ、ボランティア活動の続けてほしい、と小松神父から「チーム亘理」にアドバイスが出され、ミーティングを終わりました。